

(第7号様式の2)

事業報告書

1 事業名	みんなで創る NAHA オリエンテーション&交流会 ～多文化共生コミュニティをめざして～
2 事業実施 期間	令和4年7月 ～ 令和5年2月

<p>3 事業実施内容</p>	<p>【みんなのNAHA オリエンテーション&交流会①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2022年8月26日（日）午後2時～4時 ・場所：那覇文化てんぶす館 3F 会議室 ・目的：顔の見える関係性の構築と困った時に相談できる場所や人を知る→安心・安全な生活を送れるコミュニティづくりにつなげる ・内容：オリエンテーション（市役所相談窓口、滞在資格、ビザについて、防災、ごみ分別、事件事故防止）、文化紹介（ネパールダンス） ・参加者：外国人・日本人 およそ60名（講師・スタッフ含む） ・連携協力：那覇市役所（市民生活安全課、まちづくり協働推進課、防災危機管理課、環境政策課）入管那覇支局、那覇署、琉装スタジオ美ら美人、ウクライナ学生メンバー、WISH ネパールメンバー ・周知方法：ちらし作成、新聞掲載、ネットワーク、留学生が通う学校や技能実習、特定技能に関わっている支援機関へ案内、SNS等 <p>【文化交流会～沖縄・日本の文化を体験しよう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2022年10月16日（日）13：00-15：30 ・場所：Bookcafe & Hall ゆかるひ 那覇市久茂地3-4-10 Yakaビル 3Fホール ・目的：文化体験を通して、交流を楽しみ、地域への親しみ、人との出会い、つながりにより安心して生活できる多文化共生コミュニティのきっかけにつなげる。 ・内容：お茶、空手、カチャーシー、ゆかた着付の文化体験とゆんたく交流 ・対象者：県内在住の外国人（技能実習生、特定技能、留学生）と関心のある日本人（学生、社会人） ・参加者：ネパール、スリランカ、ミャンマー、ベトナム、インドネシア、中国、台湾出身の留学生、技能実習生、特定技能の若者、賛同する日本人（ボランティアサポート）80名 ・連携協力：沖縄尚学高校学生、桃原さん、奏先生、琉装スタジオちゅら美、日亜語外語学院、ステップワールド日本語学院、ゆかるひ みちこさん、若狭公民館、All for Okinawa/沖縄カウンターズ、糸満市議浦崎さん、那覇看護大学学生・教員、沖縄国際大学学生・教員、琉球大学学生、まちづくり協働推進課 ・周知方法：ちらし作成、SNS、キーパーソンからコミュニティへ案内、 <p>【みんなのNAHA オリエンテーション&交流会②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2023年2月18日（土）午後2時～4時 ・場所：那覇文化てんぶす館 3F 会議室 ・目的：顔の見える関係性の構築と困った時に相談できる場所や人を知る→安心・安全な生活を送れるコミュニティづくりにつなげる ・内容：グループトーク形式オリエンテーション（市役所相談窓口、ごみ分別、災害時の注意、緊急時110・119番のかけ方、困った時の相談窓口）、感想共有、活動紹介（ベトナム、ミャンマー、ネパール）、YOUTUBEでの生活情報発信の案
-----------------	---

	<p>内、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者：外国人・日本人 およそ 30 名（講師・スタッフ含む） ・連携協力：那覇市役所（市民生活安全課、まちづくり協働推進課、防災危機管理課、環境政策課）那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンター、WISH ネットメンバー ・周知方法：ちらし作成、新聞掲載、ネットワーク、留学生が通う学校や技能実習、特定技能を担当している支援機関へ案内、SNS
4 事業実施における数値目標	<p>①交流会等を 4 回開催し、各回 30 名（計 120 名）の外国人市民が参加し、関わる</p> <p>②交流会等を市役所関係機関、他団体と協働で企画実施し、各回 10 名以上の協力者（ボランティア含）が参加し、連携する</p>
5 上記 4 の数値目標の達成度	<p>【達成度】80 パーセント達成（-20 パーセント）</p> <p>【理由】</p> <p>① -20 パーセントは、スケジュールの確定タイミング</p> <p>2 月実施のみんなの NAHA オリエンテーションの参加人数は、8 月実施よりも少なかった。原因は、日程確定が遅くなり、十分な案内・広報がされていなかったことだと考える。対象にしている外国人市民は、週末の午後はアルバイトに入っていることが多いため、早めに告知して予定を入れてもらうことも大切だとあらためて学んだ。</p> <p>参加人数は、前回（8 月開催）より、少なかったが、一方では、外国人参加者が自分の聞きたいことを聞く環境になり、「いろいろ聞いて、友達のように話せたから、前回より良かった」とコメントがあった。</p> <p>② 多様な方たちとの協働はおおむねできた</p> <p>他団体や運営協力者（サポートボランティア）の方たちが関わり、協働で実施することができた。各回 10 名以上の協力者に支えられた。</p> <p>オリエンテーションは、市役所関係課、入国管理局、警察署、そして那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンターと協働で実施し、WISH ネットメンバー、ウクライナ学生メンバーがサポートに入った。また、英語を話すことができる市民からは「コミュニケーションサポートとして関わりたい」という声も聞かれた。</p> <p>文化交流会では、大学生、高校生、そして社会人がサポートメンバーとして集い、場をつくった。参加者と運営ボランティアが共に楽しみ連携しながら、会を盛り上げた⇒多文化共生コミュニティへつながると考える。</p>

6 事業の成果	<p>「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるNAHA」第5次那覇市総合計画施策の目指す街の姿につながる。</p> <p>「自分の聞きたいことを聞き、友達のように話せた！」は、私たちにとって嬉しいコメントである。</p> <p>1回目（8月実施）の時には、一方的にレクチャーをし、コミュニケーションをとる時間が無かった。WISHネパールメンバーから、「もっと声が出せるように改善したい」と提案があり、2回目（2月実施）は、グループトーク形式で行った。外国人、スピーカー（講師）共に、近い距離でリラックスして話し、主体的なコミュニケーションが生まれている様子を見ることができた。このイベントの場でのコミュニケーションの経験が、日常で困り事がある場合は、深刻になる前に自分で主体的に市役所窓口や相談したい人を探して聞いて欲しいと願う。ひいては、地域社会への外国人住民の積極的な参画と多様な担い手となっていくことを期待している。</p>
---------	--

① 良かった点、工夫したこと

- ・コミュニケーションが生まれるような場づくりを心がけた
- ・他団体、市役所関係課と協働（コラボ）で取り組めたことが良かった。
市民生活安全課、環境政策課、防災危機管理課の担当者と、「どうしたら、伝わるだろうか」と内容や伝え方を考えられたことは、市民協働での多文化共生コミュニティづくりへつなげたい。言語の壁を越えるための伝え方を模索し合うことで顔の見える関係性が培われていくと考える。トライアル的に実施経験できたことは良かった。
- ・オリエンテーションで出会ったメンバー（外国人・日本人）が、イベントを企画実施することにつながったこと⇒顔の見える関係性、ネットワーク構築につながった。
- ・「多文化共生」に関心がある日本人の会おう場にもなった⇒多文化共生コミュニティへのネットワーク構築につながった。
- ・外国人にとっては、地域で生活していて怖いと感じていること等を自分の言葉で伝えることができ、日本人にとっては、聞くことができた。言語の壁、文化の壁を感じ生活している状況共有⇒相互理解⇒関係性の構築につながる。
- ・困った時に聞ける場、ゴミの分別の仕方、119番のかけ方練習等を経験は、新しいことを学ぶ場になった⇒市民としての地域への愛着につながる。主体的な市民社会。
- ・「みんなの文化交流会」では、文化の体験を通して、リラックスし楽しんだ。最後に外国人日本人、グループトーク（ゆんたく）で、感想をシェアしたり、母国のことを伝え合う様子が見られた⇒「外国人」ではなく「〇〇さん」という顔の見える関係性の構築につながった。

② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと

- ・コロナ禍で止まっていた経済活動、人の動き、外国人の入国が再開したことで、メンバーの仕事（本業）スケジュールが忙しくなり、実施にむけての具体的な話し合いの時間の確保や意思疎通が難しかった。そのため、予定スケジュールの変更、場所の確保が遅くなった。人のつながりを作るための事業として、実施メンバー間でのコミュニケーションの大切さを痛感した。また、行政（市役所）担当者との打ち合わせのタイミングも大切にしたい。行政の業務時間内での対応についても理解し臨機応変にすすめていけたらと考える。
また、今回の取り組みから、地域で孤立することになる原因や根深い現状がより深刻になっていることを再認識した。コロナ禍で入国してきた留学生が抱える母国での経済問題、メンタルヘルス、異文化社会の中での適応していくプロセスについても今後考えていきたい。

